

〔 作 物 〕

秋大豆新品種「ヒュウガ」について

竹崎 力・小代寛正

(熊本県農業試験場畑作部)

TAKEZAKI, T・SHODAI, T.

On the New Variety of Autumn-type Soy bean "Hyuga"

秋大豆九州55号は昭和43年から宮崎県において奨励品種に採用され、通称名を「ヒュウガ」として普及に移されたので、育成の経過および特性の概要について報告する。本品種の育成に直接従事した職員は筆者などおよび工藤洋外8名である。

来歴ならびに育成経過

「ヒュウガ」は昭和30年に熊本県農業試験場阿蘇分場において赤莢を母とし、アソムスメを父として人工交配を行ない、以後集団育種法によって育成されたものである。昭和40年から九州55号の系統名で関係県に配布して地方適否を検討した結果、昭和44年大豆農林53号に登録され「ヒュウガ」と命名された。

特性の概要

1. 形態的特性 茎長は中生種としてはやや短茎であるが、茎は太く、分枝は多枝で分枝角度が小さく、草型は分枝型の品種である。着莢数は多く、莢の分布は平均している。花色は紫色、莢色は淡褐色で灰白色の毛茸が密生している。

第1表 一般特性

形質	品種名	ヒュウガ	玉錦(比)	白大八輪(比)
開花期(月日)		8.19	8.23	8.18
成熟期(月日)		11.4	11.2	10.30
茎長(cm)		53	57	57
主茎節数(節)		14.4	15.4	14.2
分枝数(本)		4.1	3.4	4.6
倒伏		無—微	微	少
ウイルス病		無—微	微	無—微
紫斑病		無	無	無
褐斑病		無	無	無
a 当たり収量(kg)		19.0	14.0	15.1
100粒重(g)		21.9	22.9	21.2
品質		上下	中中—中上	中上

熊本県農試 生検(標準栽培) 昭38~43年の6ヶ年

粒は豊円形の中大粒で、種皮の色、臍の色ともに黄白色のいわゆる白目の品種で、極良質粒である。

2. 生態的特性 玉錦に比較して開花期は3~4日早い、結実日数が4~5日長いため成熟期はほぼ同じであり、生態型はIVcに属する子実用秋大豆の中生種である。やや短茎で分枝角度が小さいため倒伏や蔓化などの生育中の障害は少なく、密植適応性が高い。ウイルス病に対する抵抗性は弱い、銹病に対しては強い。

生産力は安定して多収である。

適地および奨励品種採用県

配布先における試験成績から、中生種にもかかわらず、四国、九州の各県で対照品種の晩生種に比較して同等か、あるいは上回る収量をあげた。したがって、四国、九州の秋大豆晩生種地帯ならびに中国の秋大豆中生種地帯に広く好適するものと推察される。

対照となる品種は中生種の玉錦、白大八輪ならびに晩生種の黄色秋大豆、大分秋大豆1号などである。

昭和43年から宮崎県で奨励品種に採用され、普及に移された。

栽培上の注意

やや短茎の分枝型の品種で、生育がおう盛であるため、肥沃地では安定多収が期待できる。また分枝角度が小さくて密植適応性が高いため、晩播の場合や地力の低位な畑ではやや密植栽培とする。早期水稲の跡作地帯ではできるだけ早くまき、また排水に努める。

ウイルス病にやや弱いためウイルス病を媒介するアブラムシの防除に努める必要がある。

命名の由来

奨励品種採用の宮崎県の旧国名「日向」にちなんで命名した。